

# 平成 26 年度第 2 回庄原市初任者研修会

平成 26 年 6 月 9 日（月） 庄原市ふれあいセンター 1 階 会議室

庄原市における教育課題を踏まえ、さらなる改善を行うため、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うことを目的に、研修会を行いました。（対象者：小学校教諭 6 名，中学校教諭 1 名）

## 【講話・演習①】

### 「児童生徒理解と指導の実際」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 高見 省吾

#### 【概要】

- ・ 生徒指導の意義や進め方について理解すること。
- ・ 児童生徒一人一人に関わることを通して児童生徒理解を進めるとともに、組織的に生徒指導を行うこと。



個人思考

グループ協議

全体交流

## 【講話・演習②】

### 「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 岩本靖代

#### 【概要】

- ・ 特別支援教育の目的を十分に理解し、児童生徒実態に基づき個別の教育計画や指導計画を作成し、組織的に授業づくり、授業改善に取り組むこと。



（参加者の振り返りより）

- ◆問題行動が生起してしまった場合、他の先生や家庭としっかりと連携しながら解決を図りたい。また、まずは子供の話を聞き、気持ちを理解したい。
- ◆問題行動が生起してから対応するだけでなく、日々の授業やホームルーム、休憩時間等で生徒としっかりと関わり、大きなトラブルになる前に未然防止ができる環境をつくっていききたい。
- ◆教師からの肯定的な評価はもちろんのこと、子供同士で肯定的に評価し合える環境、雰囲気づくりを行いたい。
- ◆授業の中でどのように生徒指導の三機能を生かせばよいか参考になった。
- ◆生徒理解、指導と言っても、具体的にはこういった声かけや活動がよいのか迷う。しかし、本講話・演習を通して取組例を知ることができた。特に、児童同士が話し合う機会を意図的に設定したり、児童の話にしっかりと傾聴したりしたい。

（参加者の振り返りより）

- ◆他の先生方とのグループ協議により、今まで自分が考え付かなかった支援・対策を知ることができた。
- ◆指導に困った場合、どんな工夫をすればよいのか考えてきたが、なぜ困った状況が起こるのか要因について十分に考える必要があることが分かった。
- ◆教師の声かけ、指示、掲示の仕方ひとつで、子供の理解は大きく変わることが分かった。本研修で得た効果的な指示や発問、視覚支援をもとに、様々なアプローチをしていきたい。
- ◆通常学級において特別な教育的支援を必要とする児童について、教職員間で共通認識をもつことも大切だと感じた。
- ◆特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを進めるためには、一貫した指導、共通した指導、焦点化した指導を行っていくことが、授業の質を高め、クラス全体の成長につながると思った。